

受験番号

中部会計専門学校

答案用紙

平成 19 年 度
第 117 回 簿 記 検 定 試 験

1 級 — I

商業簿記・会计学

(制限時間 1 時間 30 分)

(1 級 4 科目 午前 9 時開始)

(平成 19 年 11 月 18 日(日)施行)

受験
番号

第 117 回簿記検定試験答案用紙

生年月日 昭・平

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ①

氏名

商業簿記

問 1

(単位：千円)

採点欄

科 目	個別財務諸表			連結財務諸表	
		P 社	S 社	合 計	
貸借対照表					
現金預金	200,000		90,000		(290,000)
売掛金	50,000		15,000		(55,000)
商品	12,000		8,000		(19,500)
繰延税金資産	11,000		10,000		(21,800)
土地	100,000		30,000		(149,000)
備品	20,000		15,000		(35,000)
のれん					(14,940)
S社株式	95,000		—		(0)
A社株式	36,000		—		(35,940)
その他資産	284,000		200,000		(484,000)
買掛金		40,000		20,000	(50,500)
繰延税金負債		6,000		5,000	(19,080)
その他負債		391,000		241,000	(632,000)
貸倒引当金		1,000		300	(1,100)
資本金		150,000		50,000	(150,000)
資本剰余金		80,000		10,000	(80,000)
利益剰余金		140,000		41,700	(138,570)
少数株主持分					(33,930)
合 計	808,000	808,000	368,000	368,000	(1,105,180)
損益計算書					
売上高		300,000		130,000	(341,000)
売上原価	240,000		108,000		(259,250)
諸費用	40,000		18,000		(57,950)
諸収益		17,000		7,000	(17,100)
のれん償却額					(1,660)
持分法による投資利益					(2,340)
法人税等	16,900		4,840		(21,740)
法人税等調整額		2,100		540	(3,120)
少数株主利益					(1,830)
当期純利益	22,200		6,700		(21,130)
合 計	319,100	319,100	137,540	137,540	(363,560)

問 2

利益剰余金前期末残高 (129,440) 千円
 利益剰余金増加高 (21,130)
 利益剰余金減少高 (12,000)
 利益剰余金当期末残高 (138,570) 千円

第 117 回簿記検定試験答案用紙

氏名

1 級 ②

会 計 学

試験地(会議所名)	採点欄

第 1 問

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
⑧	⑮	⑪	⑤	⑥

採点欄

第 2 問

1	264,000 円
2	264,000 円
3	120,000 円
4	パーチェス法
5	販売費及び一般管理費

第 3 問

譲渡人の会計処理：

C 社の場合

譲渡時：

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金預金	100	(土地建物)	(60)
		(固定資産売却益)	(40)
(有価証券)	(5)	現金預金	5

毎年度：

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金預金	2	(受取配当金)	2

D 社の場合

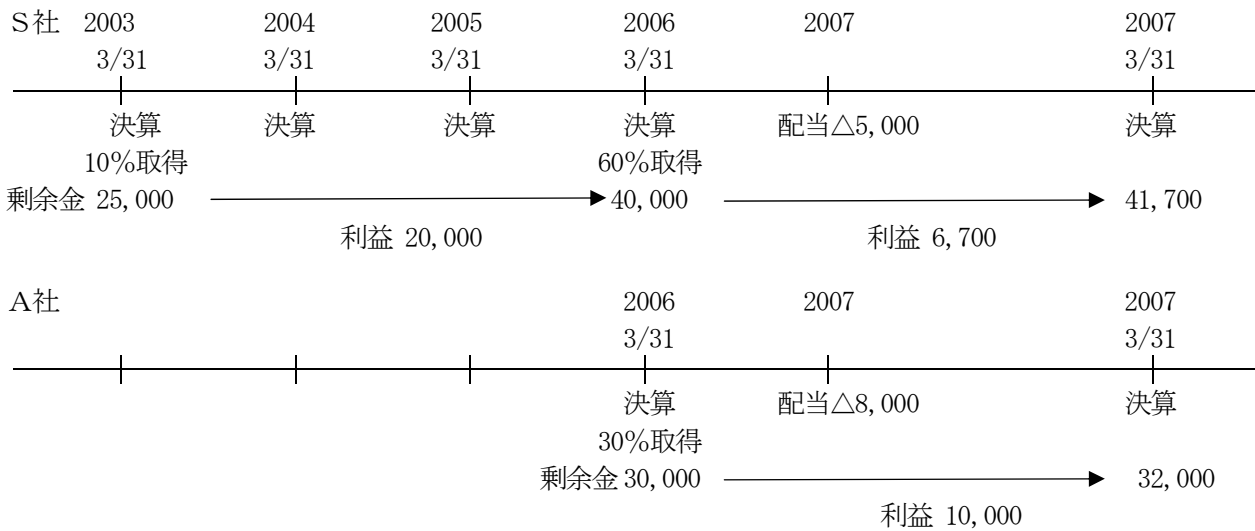
譲渡時：

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金預金	100	(借入金)	100
(借入金)	30	現金預金	30

毎年度：

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金預金	6	(賃貸収入)	(10)
(賃貸原価)	(4)		
(支払利息)	4	現金預金	4

商業簿記解説(単位：千円)



S社(全面時価評価法・一括法)

2006年3/31 70%取得

土	地	20,000	繰延税金負債	8,000
			評価差額	12,000
繰延税金負債		$20,000 \times 0.4 = 8,000$		
評価差額		$20,000 - 8,000 = 12,000$		
資本金前期末残高		50,000	S社株式	95,000
資本剰余金前期末残高		10,000	少数株主持分前期末残高	33,600
利益剰余金前期末残高		40,000		
評価差額		12,000		
のれん		16,600		

少数株主持分 $(50,000 + 10,000 + 40,000 + 12,000) \times 30\% = 33,600$

のれん $95,000 - (50,000 + 10,000 + 40,000 + 12,000) \times 70\% = 16,600$

期首商品 未実現利益の消去(ダウン・ストリーム)

利益剰余金前期末残高	750	商	品	750
繰延税金資産	300	利益剰余金前期末残高		300
未実現利益	$3,750 \times 25\% / 125\% = 750$	繰延税金資産	$750 \times 0.4 = 300$	

貸倒引当金の設定

貸倒引当金	150	利益剰余金前期末残高	150
利益剰余金前期末残高	60	繰延税金負債	60
貸倒引当金の修正	$7,500 \times 2\% = 150$	繰延税金負債	$150 \times 0.4 = 60$



まとめる

開始仕訳

資本金前期末残高	50,000	S社株式	95,000	
資本剰余金前期末残高	10,000	少数株主持分前期末残高	33,600	
利益剰余金前期末残高	40,360	商	品	750
土地	20,000	繰延税金負債	8,060	
貸倒引当金	150			
繰延税金資産	300			
のれん	16,600			

当期純利益の振替 (2006年3/31~2007年3/31)

少数株主損益	2,010		少数株主持分当期変動額	2,010
6,700×30% = 2,010				

のれんの償却 (2007年3/31)

のれん償却額	1,660		のれん	1,660
16,600÷10年=1,660				

剰余金の配当

諸収益	3,500		利益剰余金当期変動額	5,000
(受取配当金)				
少数株主持分当期変動額	1,500			
配当金 P社(親会社)	5,000×70%=3,500			
少数株主持分	5,000×30%=1,500			

3 内部取引高の相殺消去

売上高	89,000		売上原価	89,000
未達商品				
商品	500		買掛金	500
89,000-88,500=500				

債権・債務の相殺

買掛金	10,000		売掛金	10,000
期首商品 実現仕訳				
商品	750		売上原価	750
法人税等調整額	300		繰延税金資産	300
未実現利益 3,750×25%/125%=750 繰延税金資産 750×0.4=300				

期末商品 未実現利益の消去

売上原価	1,000		商品	1,000
繰延税金資産	400		法人税等調整額	400
未実現利益 (4,500+500)×25%/125% = 1,000				
繰延税金資産 1,000×0.4=400				

貸倒引当金の設定

前期分の戻入

諸費用	150		貸倒引当金	150
(貸倒引当金繰入)				
繰延税金負債	60		法人税等調整額	60
前期貸倒引当金の修正 7,500×2%=150 繰延税金負債 150×0.4=60				

当期分の修正

貸倒引当金	200		諸費用	200
(貸倒引当金繰入)				
法人税等調整額	80		繰延税金負債	80
貸倒引当金の修正 10,000×2%=200 繰延税金負債 200×0.4=80				

土地の売却 未実現利益の消去(アップ・ストリーム)

諸収益	1,000		土地	1,000
(固定資産売却益)				
少数株主持分当期変動額	300		少数株主損益	300
繰延税金資産	400		法人税等調整額	400
少数株主損益	120		少数株主持分当期変動額	120
固定資産売却益の少数株主持分の振替 1,000×30%=300				
繰延税金資産 1,000×0.4=400				
法人税等調整額の少数株主持分の振替 400×30%=120				

A社(持分法の適用)

当期純利益の振替 (2006年3/31~2007年3/31)

A 社 株 式	3,000	持分法による投資損益	3,000
$10,000 \times 30\% = 3,000$			

投資差額の償却(2007年3/31)

持分法による投資損益	300	A 社 株 式	300
投資差額： $36,000 - \{(80,000 + 30,000) \times 30\% \} = 3,000$			
投資差額の償却： $3,000 \div 10 \text{年} = 300$			

剰余金の配当

諸 収 益	2,400	A 社 株 式	2,400
(受 取 配 当 金)			

備品の売却 未実現利益の消去(アップ・ストリーム)

持分法による投資損益	600	A 社 株 式	600
(固 定 資 産 売 却 益)			
(備 品)			
A 社 株 式	240	持分法による投資損益	240
(繰 延 税 金 資 産)			
(法 人 税 等 調 整 額)			
未実現利益の消去額 $(7,000 - 5,000) \times 30\% = 600$			
繰延税金資産 $600 \times 0.4 = 240$			

会計学解説

第2問(単位:円)

諸	資	産	1,230,000	諸	負	債	550,000
の	れ	ん	120,000	自	己	株	式
				資	本	金	264,000
				資	本	準	備
						金	264,000

自己株式: $@680 \times 400 \text{ 株} = 272,000$

増加資本金: $(@800 \times 1,000 \text{ 株} - 272,000) \times 1/2 = 264,000$

資本準備金: $(@800 \times 1,000 \text{ 株} - 272,000) - 264,000 = 264,000$

のれん: $(@800 \times 1,000 \text{ 株}) - (1,230,000 - 550,000) = 120,000$

第3問

C社: 流動化した不動産の譲渡時の適正な価額(時価)に対する負担の割合が、5%程度($100 \times 5\% = 5$)の範囲内であるので、売買取引として会計処理を行う。

D社: 流動化した不動産の譲渡時の適正な価額(時価)に対する負担の割合が、5%程度($100 \times 30\% = 30$)の範囲内にならないので、金融取引として会計処理を行う。

受験番号

答案用紙

平成 19 年度
第 117 回 簿記 検定 試験

1 級 — II

工業簿記・原価計算

(制限時間 1 時間 30 分)

(1 級 4 科目 午前 9 時開始)

(平成 19 年 11 月 18 日(日)施行)

受験
番号

--	--	--	--

第 117 回簿記検定試験答案用紙

生年月日 昭・平 . .

試験地 (会議所名)	採点欄

1 級 ③

工業簿記

氏名 _____

問 1

購入原料価格差異	56,250 円 (U)
----------	----------------

採点欄

問 2

原料費の差異分析	原料配合差異	4,000 円 (F)
	原料歩留差異	87,000 円 (F)
直接労務費の差異分析	労働賃率差異	35,000 円 (U)
	労働能率差異	45,000 円 (U)
	労働歩留差異	90,000 円 (F)
変動製造間接費の差異分析	予算差異	35,000 円 (U)
	能率差異	35,000 円 (U)
	歩留差異	70,000 円 (F)
標準変動費差異合計		101,000 円 (F)

問 1、問 2 の () 内には「有利な差異」の場合には F と記入すること。
「不利な差異」の場合には U と記入すること。

問 3

実際損益計算書

(単位: 円)

売上高	(24,450,000)	
標準変動費	(12,078,300)	
標準貢献利益	(12,371,700)	
標準変動費差異	(101,000)	
実際貢献利益	(12,472,700)	
固定製造間接費	(4,980,000)	
棚卸資産金利	(1,462)	
設備金利	(450,000)	
販売手数料	(2,474,340)	
固定一般管理費	(710,000)	
残余利益	(3,856,898)	

生年月日 昭・平

第 117 回簿記検定試験答案用紙

受験
番号

--	--	--	--	--

氏名 _____

1 級 ④

原 価 計 算

試験地 (会議所名)	採 点 欄

第 1 問

問 1

	1 個当たり貢献利益	1 時間当たり貢献利益
製品 X	90 円	54,000 円
製品 Y	200 円	40,000 円

採 点 欄

問 2

	部品 X のみを製造・販売する場合	部品 Y のみを製造・販売する場合
貢献利益	324,000 千円	240,000 千円
営業利益	108,000 千円	24,000 千円

問 3

部品 Y の最低販売価格	600 円
--------------	-------

問 4

	部品 X のみを製造・販売する場合	部品 Y のみを製造・販売する場合
貢献利益	237,600 千円	153,600 千円
営業利益	108,000 千円	24,000 千円

第 2 問

問 1

	製品 A (100 個)	製品 B (50 個)	合 計
日商商店への売上原価	21,400 円	17,650 円	39,050

問 2

	製品 A (100 個)	製品 B (50 個)	合 計
日商商店への売上原価	26,400 円	22,400 円	48,800 円

工業簿記解説(単位：円)

材料標準投入量

原料A	$\frac{245,000 \text{ 個}}{100 \text{ 個}}$	× 16kg ×	$\frac{7\text{kg}}{16\text{kg}}$	= 17,150kg
原料B	$\frac{245,000 \text{ 個}}{100 \text{ 個}}$	× 16kg ×	$\frac{3\text{kg}}{16\text{kg}}$	= 7,350kg
原料C	$\frac{245,000 \text{ 個}}{100 \text{ 個}}$	× 16kg ×	$\frac{6\text{kg}}{16\text{kg}}$	= 14,700kg
				39,200kg

原料A

単価 実際 152

		購入原料価格差異 △ 33,400		
標準	150			
		歩留差異 + 52,500	配合差異 + 15,000	
		標準数量 17,150kg	↑ 実際投入量×標準投入割合 $38,400\text{kg} \times \frac{7\text{kg}}{16\text{kg}} = 16,800\text{kg}$	実際数量 16,700 kg
				実際購入量 16,700kg

原料B

単価 実際 69

		購入原料価格差異 + 6,850		
標準	70			
		歩留差異 + 10,500	配合差異 + 21,000	
		標準数量 7,350kg	↑ 実際投入量×標準投入割合 $38,400\text{kg} \times \frac{3\text{kg}}{16\text{kg}} = 7,200\text{kg}$	実際数量 6,900 kg
				実際購入量 6,850kg

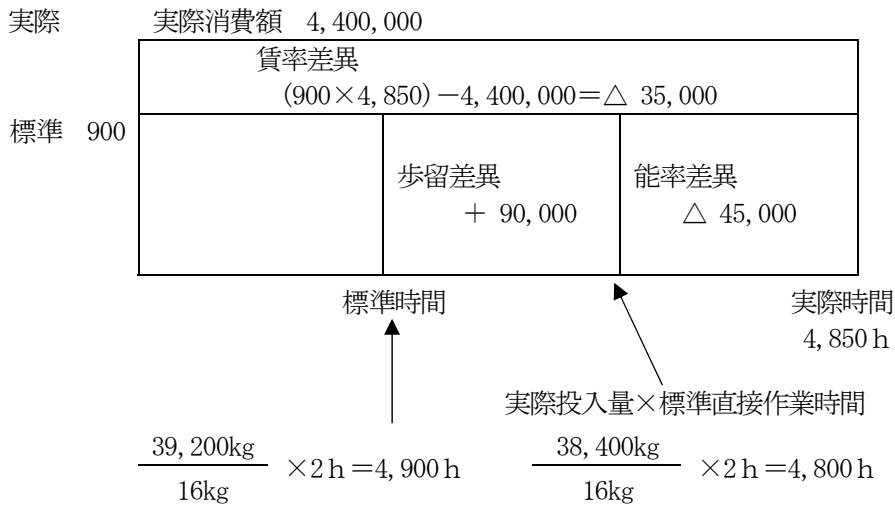
原料C

単価 実際 82

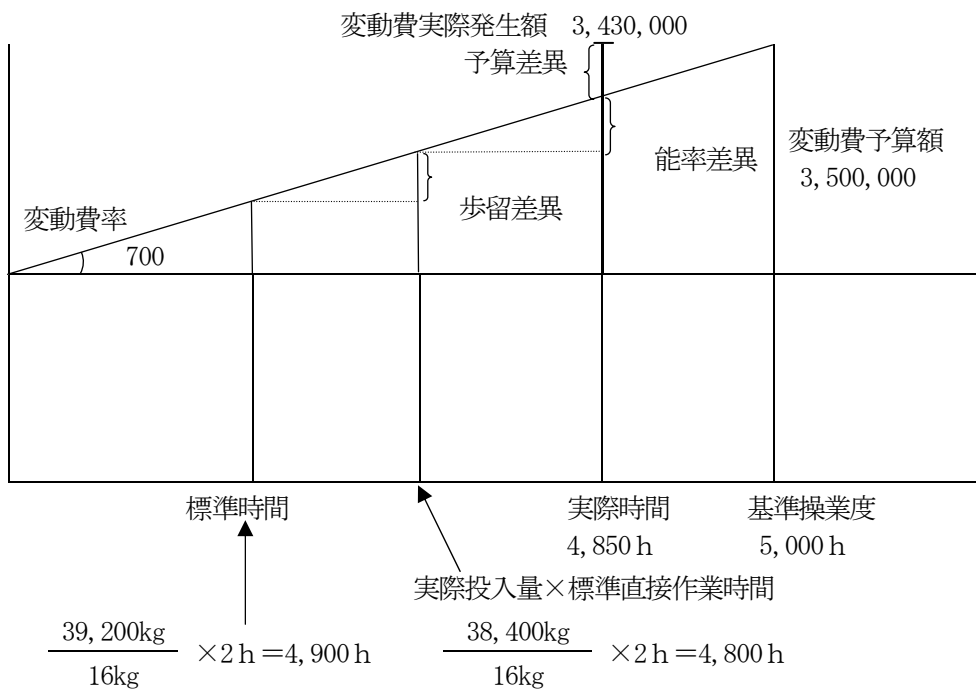
		購入原料価格差異 △ 29,700		
標準	80			
		歩留差異 + 24,000	配合差異 △ 32,000	
		標準数量 14,700kg	↑ 実際投入量×標準投入割合 $38,400\text{kg} \times \frac{6\text{kg}}{16\text{kg}} = 14,400\text{kg}$	実際数量 14,800 kg
				実際購入量 14,850kg

労務費

賃率 実際



製造間接費



予算差異： $(700 \times 4,850) - 3,430,000 = \Delta 35,000$

歩留差異： $(4,900 - 4,800) \times 700 = + 70,000$

能率差異： $(4,800 - 4,850) \times 700 = \Delta 35,000$

製品X100個当たりの原価標準

原料 A	@150×7kg=	1,050
原料 B	@ 70×3kg=	210
原料 C	@ 80×6kg=	480
直接労務費	@900×2h=	1,800
製造間接費	@700×2h=	1,400
合計	@ 4,940	

原料月末有高

原料 A	@150×500kg=	75,000
原料 B	@ 70×150kg=	10,500
原料 C	@ 80×450kg=	36,000
合計		121,500

製品月末有高

製品	@4,940×500個/100個=	24,700
----	-------------------	--------

実 際 損 益 計 算 書

(単位：円)

売上高	@100×244,500個=	24,450,000
標準変動費	@4,940×244,500個/100個=	12,078,300
標準貢献利益		12,371,700
標準変動費差異	問2より	(有利)101,000
実際貢献利益		12,472,700
固定製造間接費	IV (4)より	4,980,000
棚卸資産金利	(121,500+24,700)×12%×1ヵ月/12ヵ月=	1,462
設備金利	4,500,000×12%×1ヵ月/12ヵ月=	450,000
販売手数料	12,371,700×20%=	2,474,340
固定一般管理費	IV (5)より	710,000
残余利益		3,856,898

原価計算解説

第1問

問1 (単位:円)

部品1個当たりの貢献利益

	部品X	部品Y
売上高	230	530
変動費		
直接材料費	115	150
直接労務費	25	40
部品Xの変動費	—	140
貢献利益	90	200

1時間当たりの貢献利益

部品X @ $90 \times (600 \text{ 個} \div 1 \text{ h}) = 54,000$

部品Y @ $200 \times (600 \text{ 個} \div 3 \text{ h}) = 40,000$

問2 (単位:円)

部品Xのみを製造・販売する場合

生産・販売量 $6,000 \text{ h} \times (600 \text{ 個} \div 1 \text{ h}) = 3,600,000 \text{ 個}$

売上高	@ $230 \times 3,600,000 \text{ 個} =$	828,000,000
変動費		
直接材料費	@ $115 \times 3,600,000 \text{ 個} =$	414,000,000
直接労務費	@ $25 \times 3,600,000 \text{ 個} =$	90,000,000
貢献利益		324,000,000
固定費	@ $60 \times 3,600,000 \text{ 個} =$	216,000,000
営業利益		108,000,000

部品Yのみを製造・販売する場合

生産・販売量 $6,000 \text{ h} \times (600 \text{ 個} \div 3 \text{ h}) = 1,200,000 \text{ 個}$

売上高	@ $530 \times 1,200,000 \text{ 個} =$	636,000,000
変動費		
直接材料費	@ $150 \times 1,200,000 \text{ 個} =$	180,000,000
直接労務費	@ $40 \times 1,200,000 \text{ 個} =$	48,000,000
部品Xの変動費	@ $140 \times 1,200,000 \text{ 個} =$	168,000,000
貢献利益		240,000,000
固定費	(@ $60 + @120$) $\times 1,200,000 \text{ 個} =$	216,000,000
営業利益		24,000,000

問3 (単位:円)

もし、部品Xのみを製造・販売したら、1時間当たり@ $90 \times (600 \text{ 個} \div 1 \text{ h}) = 54,000$ の貢献利益が得られる。部品Yのみを製造・販売して1時間当たり $54,000$ の貢献利益を得るためには、@ $X \times (600 \text{ 個} \div 3 \text{ h}) = 54,000$ $X = 270$ となる。よって、最低販売価格は変動費@330+貢献利益@270=@600となる。

問4 (単位: 円)

部品Xのみを製造・販売する場合

生産・販売量 $6,000 \text{ h} \times (600 \text{ 個} \div 1 \text{ h}) = 3,600,000 \text{ 個}$

売上高	@230 × 3,600,000 個 =	828,000,000
変動費		
直接材料費	@115 × 3,600,000 個 =	414,000,000
直接労務費	@ 25 × 3,600,000 個 =	90,000,000
製造間接費	21,600,000 × 40% =	86,400,000
貢献利益		237,600,000
固定費	21,600,000 × 60% =	129,600,000
営業利益		108,000,000

部品Yのみを製造・販売する場合

生産・販売量 $6,000 \text{ h} \times (600 \text{ 個} \div 3 \text{ h}) = 1,200,000 \text{ 個}$

売上高	@530 × 1,200,000 個 =	636,000,000
変動費		
直接材料費	@150 × 1,200,000 個 =	180,000,000
直接労務費	@ 40 × 1,200,000 個 =	48,000,000
製造間接費	21,600,000 × 40% =	86,400,000
部品Xの変動費	@140 × 1,200,000 個 =	168,000,000
貢献利益		153,600,000
固定費	21,600,000 × 60% =	129,600,000
営業利益		24,000,000

第2問

問1 (単位: 円)

	製品 A	製品 B
直接材料費	@130 × 100 個 = 13,000	@220 × 50 個 = 11,000
材料取扱い	@120 × (100 個 × 0.2kg) = 2,400	@120 × (50 個 × 0.4kg) = 2,400
段取り	$\frac{6,000}{600 \text{ 個}} \times 100 \text{ 個} = 1,000$	$\frac{6,000}{240 \text{ 個}} \times 50 \text{ 個} = 1,250$
加工	@40 × 100 個 = 4,000	@40 × 50 個 = 2,000
包装・出荷	@1,000 × 1 回 = 1,000	@1,000 × 1 回 = 1,000
	<u>21,400</u>	<u>17,650</u>

問2 (単位: 円)

	製品 A	製品 B
直接材料費	@130 × 100 個 = 13,000	@220 × 50 個 = 11,000
材料取扱い	@120 × (100 個 × 0.2kg) = 2,400	@120 × (50 個 × 0.4kg) = 2,400
段取り	6,000 × 1 回 = 6,000	6,000 × 1 回 = 6,000
加工	@40 × 100 個 = 4,000	@40 × 50 個 = 2,000
包装・出荷	@1,000 × 1 回 = 1,000	@1,000 × 1 回 = 1,000
	<u>26,400</u>	<u>22,400</u>